

## Germany <ドイツ>

EDELGARD BULMAHN、教育大臣（1998-2005）：PISA 調査と、その結果の考察により、人々は急に目を覚ましました。PISA 調査はみんなの前に鏡を置いたのです。そして、我々の教育システムには、これ以上無視することができない大きな弱点があり、対策が必要なことが明らかになったのです。

TITLE : "Strong Performers and Successful Reformers in Education: Germany"

MARTIN SPIEWAK、Die Zeit ジャーナリスト：PISA は、私たちの教育システムを大きく動揺させました。なぜなら、私たちが自信をもっていた 2 つのことを信頼できないものにしてしまったからです。1 つ目は、ドイツ人の誰もが、ドイツの学校、特によりアカデミックな高校は、非常に成績レベルが高いと思っていたこと。我々は全般的に、優れた教育を生徒らに提供していると思っていたのです。2 つ目は、我々の学校制度が比較的公平なものであると思っていたことです。

CHRISTIAN FULLER、Diw Tageszeitung ジャーナリスト：2000 年に実施され 2001 年に発表された PISA 調査により、ドイツの学校制度は民主的でないことが明らかになりました。この調査の最も重要な結果は、ドイツの生徒の 25%程度がいわゆる「危機的な」レベルに分類されたこと、および 10%が日常生活に必要な読み書き能力に欠けていると判定されたことでした。これは、私たちのシステムにおいて、非常に衝撃的でした。世界の輸出トップである先進工業国が、突如、その生徒の 25%が、後の人生において経済に貢献し責任ある国民として行動するために必要なことを、学校で学んでいないことを認識させられたのです。

MARIANE DEMMER、ドイツ教員組合会長：この調査から、生徒の成績レベルが私たちの期待通りでなかったことだけではなく、社会的起源と習熟度の間に強い関係があるということも分かりました。さらに、移民の生徒たちは、その他の生徒たちとは、成績が明らかに異なるということも分かりました。

教師：どこが一番上かわかった？ 15-15。そうだね。

EDELGARD BULMAHN：PISA 調査と、その結果の考察により、それまで当然のもととして受け入れられてきた、貧しい家庭、いわゆる恵まれない家庭の子どもたちは恵まれている家庭の子どもたちと同等の教育の機会および達成が得られないという事実、疑問が投げかけられました。それは、PISA 調査、特に他国との結果の比較によって、明らかになったのです。貧しい環境で育ったにもかかわらず、学校で成功している子どももいるということが。

**MARTIN SPIEWAK** : ドイツの学校制度は、複数の柱からなるシステムになっています。つまり、生徒を比較的早期から、一般的には 4 年生修了時から分類し、恐らく成績に応じて異なる学校に振り分けています。ハウプトシューレ、実科学校、ギムナジウムの 3 種類があります。これが、3 本の柱から成るドイツの学校制度なのです。

**EDELGARD BULMAHN** : 非常に成績優秀な生徒は、一般的に **Gymnasium** に行きます。ただし、家庭の社会的ステータスにもよります。例えば、移民または労働者階級の家庭の生徒の場合、非常に優れた成績を収めても、ギムナジウムには行かず、実科学校に行くこととなります。実科学校は、いわゆる中級レベルの学校です。次にあるのが、ハウプトシューレです。ハウプトシューレに行く子どものお大半は、移民家庭の子どもか、貧しい社会経済的環境の子どもたちです。この 3 本の柱システムのせいで、ドイツのシステムには透過性がありません。10 歳のときに、これらの柱のどれかに割り当てられてしまうのです。そしてそれが、その後の学術的なキャリアを決定する。さらには、その後の勤労のキャリアも。もう一度いいますが、これは非常に馬鹿げていて、人間発達のポテンシャルに対応していないのです。

教師 : これは、8 つの単語が与えられているだけの短いテストでした。これをもう 1 回やってみましょう。そして、ブックレットとそこにあるボキャブラリーを使って、お互いに話し合ってみましょう。

**MARIANE DEMMER** : 私たちが主に注目したのは、このひどい不公平を是正することと、どのようにしたら、若者の様々なニーズに応えられるように教員養成・研修を変えることができるのかということでした。

生徒 : Kleidt?

生徒 2 : Dress

生徒 : Waschen ?

生徒 2 : Wash

**MARTIN SPIEWAK** : 学校制度の断片化は、教員養成・研修にも反映されています。連邦州ごとに、独自の教員養成・研修の証明書があって、隣の連邦州でのことさえ完全に認識できていないと思われます。つまり、教師にとって、ある州から別の州に転勤することは容易ではなく、このため教師の非流動性が存在していたのです。

テキストスライド：ドイツの 16 連邦州は、教育の政策と提供の第一義的な責任を負っている。連邦教育省は、監督の役割を担っており、一般教育政策の規制と、研究プロジェクトおよび研究所への資金提供を行っている。

**MARTIN SPIEWAK**：すべての連邦州が、教員養成・研修を改革する必要性を認識しています。例えば、教師は子どもを正しく診断する準備をしていなかったために批判されていました。私たちの学校制度は分割されているのに、教師が子どもたちを間違った進路に方向づけてしまったり、子どもたちが間違った進路を選択することもありました。そこで、教師がもっと子どもたちの評価をきちんとできるようにしなければならないと言われていました。

教師：さあ、考えて。この文を、疑問文に変えてみましょう。とてもよくできたわね。次のステップには来週進みましょう。名詞と述語を判断します。

**EDELGARD BULMAHN**：私は、幼稚園でもすべての学校でも、生徒の個別サポートが焦点となるような方向性で、私たちの学校制度を変えるべきだと提案しました。そしてそれが、教育の主たる原則となるべきだと。第 2 に、1 日の日課を、全日制に変えることも提案しました。なぜなら、この個別サポートの原則は、全日制の方がうまく実施できると思ったからです。それは単純に、より多くの時間が使えて、さらにより一人一人に対応した学習機会を通して、子どもたちをうまくサポートできると考えたからです。第 3 に、教育基準の導入を提案しました。それまでは、学校のタイプ、科目、学年、それからもちろん連邦州ごとに、一般的なガイドラインがあっただけでした。私は、教師、保護者、子どもの三者が子どもに何を学んでほしいかを正確に知ることができるよう、連邦ガイドラインを導入することを提案しました。例えば、10 歳のとき、4 年生の修了時、7 年生の修了時、または 2 年生の修了時といったように、教育的な能力に関する基準と透明性を持っているものなのです。

テキストスライド：Rheinland-Pfalz の例。ドイツ南西部の Rheinland-Pfalz は、16 連邦州の 1 つである。

テキストスライド：人口は 400 万人、その 8%未満が、非ドイツ系の移民出身。ドイツで裕福な州の 1 つであり、教育改革に積極的に参加している州の 1 つでもある。

教師：Hilal の弱点は数学ですが、文法に関しては最高で、他の生徒を助けてあげるほどです。

**GERHARD LEISENHEIMER**、Erich Kastner Realschule Plus 校長：「責任ある学校」という実験プログラムに参加して 5 年になります。この実験プログラムにおいて、学校は大きな自主

性と責任を与られます。学校は協調的な文化の中で自発性を与えられれば、より効果的かつ生産的になれるという事実を認識することができるので、これは PISA に直結すると私は信じています。

教師：生徒が他の生徒を一貫して手伝ってあげた場合、何らかの方法で褒めてあげるべきです。次の会議では、その点について話し合しましょう。

**GERHARD LEISENHEIMER**：孤立しては現代の学校を率いることができないということ、私たちは認識しています。教師が一同に会し、チームとして取り組むことが必要なのです。そして私たちは、この必要性を行動に移しました。教師の勤務における中核的な手法として、チームワークを導入したのです。そこから、いろんなアイデアが開始されました。チームが自分たちの仕事に満足したら、そのアイデアを他のチームと共有します。

教師：それからチーム 5 のところに行き、チームで合意した目標について聞きました。彼らには問題解決のための手法もありましたが、さらに素晴らしいアイデアもありました。生徒との間に、契約を結ぶと言うアイデアです。

**ANGELA CHRISTMANN, Erich Kastner Realshcule Plus 教師**：私たちの学校では、週 1 回、チーム会議を行っています。あるとき私は、生徒への個別サポートを増やす方法について考えていました。生徒にはそれぞれの強みと弱みがあるからです。そして、それぞれの生徒とその保護者と面談を行うというアイデアに至りました。そうすることですべてが公式になり、さらに契約書を作成することで、生徒は自分の学習が真剣に取り組われていることを実感できるのです。

テキストスライド：この学校で最も成功したイノベーションの一つに、5 年生での「学習契約」の導入がある。

- 教師、生徒および保護者が、それぞれの生徒の目標に合意する。
- 生徒の学習能力に改善が見られ、また授業での課題に対する熱意が向上する。

**ANGELA CHRISTMANN**：これを読んでみてください。すべてを注意深くね。あなた、お母さん、そして私の間で行うこの「発展面談」には、2011 年 5 月 5 日まで時間があります。休み明けですね。でも、休み中も読む時間あるわよね。

**GERHARD LEISENHEIMER**：初めて保護者との間で契約を交わしたとき、チームはとても興奮しました。でも、保護者は最初、とても驚いていました。それから、自分の子どもの学習に関与できるようになったと言う事実、とても満足していた様子でした。面白いことに、例えば、子どもが契約書に、もっと保護者と読書をしたい、そして、週末にはもっと一緒に時間を過ごし

たいと書いたとします。すると、保護者もその契約書に拘束されるのです。

テキストスライド：PISA 2000 年調査を受けた Rheinland-Pfalz の改革

- 幼稚園の増加、2 歳からの幼児教育の無償化
- 移民家庭の子どもおよび親向けの専任ドイツ語教員
- 新たな教員養成・研修システムおよび教員数の増加

テキストスライド：

- 1 年生からの外国語教育（英語またはフランス語）
- 不利な子ども向けの全日制プログラムおよびその他の子どもたちにもより多くの全日制の機会を
- 幼稚園に通わなかった子ども向けの入学時の言語テスト

テキストスライド：

- 中学校を統合して、異なる学術的能力レベルの生徒をまとめる
- 教師の質の向上プログラムと保護者との契約の強化

キャリアガイダンスは、私たちにとって非常に重要な役割を果たしています。というのも、キャリアガイダンスは、教育の土台だと確信しているからです。組織的な視点からは、生徒は日中にはインターンシップをするという選択肢もあります。これは通常、8 年生から始まります。つまり生徒は定期的に、可能な場合は 1 年の半分以上、勤務先で 1 日を過ごすようになります。第 2 の選択肢は、インターンシップを 9 年生から始めるというものです。休み前に、14 日間の仕事をすることができます。第 3 の選択肢として、生徒は個別のインターンシップをすることもできます。例えば、インターンシップにおいて、上司は「あなたがこの種類の仕事に向いているかどうかを判断するので、3~4 日ぐらい来てください」ということもできるのです。

15 分（白髪の男性） 私たちは、インターンシップを通じて、生徒たちに仕事の世界についての洞察力を身に付けてほしい。さらに重要なことは、生徒が、学業成績だけで評価されるのではないということです。ただ、決定的な疑問は、果たして私たちは、生徒が特定の方向性に進むように、動機づけすることができるのか、そして、その可能性を認識できるのかということです。

教師：あなたたちは、2 回目の 1 日インターンシップをしてきましたね。昨日インターンシップをしてきたので、今日はレポートを提出してください。インターンシップで、何が好きで、何が好きじゃなかったのか。

ANGELA CHRISTMANN：8 年生の職業インターンシップ中、このような協働学習と個別課題

を通じて、生徒たちはより自信を持つようになります。さらにその後、生徒たちは、インターンシップに関するレポートを書いて、仲間に体験を話すように促されます。

テキストスライド：ドイツは、PISA の数学的リテラシーの順位が、2003 年調査の 21 位から 2009 年調査の 10 位に上昇した。また、読解力については、2000 年調査の 23 位から 2009 年調査の 16 位に上昇した。

テキストスライド：ドイツ語圏以外からの移民の生徒の成績は、1 学年相当分の改善が見られた。危機的なレベルの生徒は 22.6%から 18.5%に減少した。

MARTIN SPIEWAK : PISA が私たちドイツ人の議論にもたらしたものは、成績はある程度、測定・比較が可能であるというアイデアです。長きにわたりドイツ人は、その考えを敬遠していました。国際調査にも参加しなければ、そのような調査に注目もしない。その理由は、生徒の成績を評価することなど到底不可能であると考えられていたためです。そのため、ドイツでは、教育の政治、教育研究、および論文の議論において、倫理的な回れ右について話題にされています。今では誰もが、調査に注目しており、研究結果が教えてくれるもの、教育研究が教えてくれるものについて知ろうとしています。

EDELGARD BULMAHN : PISA 調査および学校制度、全日制、国家基準の変更すべてにまつわる議論の結果得られたものの一つに、学校種の変更もあります。連邦州の大半は、いわゆる 2 つの柱からなる学校制度に移行しつつあります。つまり、学校種が 2 つだけになるのです。これは、いまだに部分的には残っている、生徒をどんどん小さな箱に分類していく過去の様々な学校の種類と比べると、進歩だと言えるでしょう。子どもの早期分別を防ぎ、より多くの選択肢を提供することは、正しいやり方です。多くの州が、その方向へと進み始めているのです。